

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472200266
法人名	グループホーム キノシタ(有)
事業所名	グループホーム すいせん
所在地 (電話番号)	三重県三重郡川越町大字高松203-2 (電話) 059-363-6515
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 11 月 5 日(水)

【情報提供票より】(H20年10月12日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 9人, 非常勤 7人, 常勤換算	14.4人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無 (期間2年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円(欠食時は1食400円返金)			

(4)利用者の概要(10月12日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	2 名	要介護2	4 名			
要介護3	6 名	要介護4	5 名			
要介護5	名	要支援2	1 名			
年齢	平均	80.9 歳	最低	62 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	石川内科医院(内科、往診可)・永田歯科(歯科・訪問診療可)
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町の西部に位置し、事業所横の道路北側に小学校、近くに保育園もあり、玄関前は電車の線路の土手に面した木造の一階建ての事業所である。地域との交流もよく自治会、老人会にも加入し、事業所前の道路は小学生の通学路で行き帰りには挨拶(手を振る)を交わす等の交流があり、利用者にとっては住み慣れた自宅での生活となんら変わらない雰囲気の中で、毎日の暮らしが継続されている。事業所内は天井も高く明るく広々とし、電車の騒音も感じない造りである。管理者はじめ職員は笑顔で優しく、利用者のニーズにそった介護が実践されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスの「運営理念」、「重症化や終末期に向けた方針の共有」等は、管理者、職員と話し合い改善に向けて検討され、介護サービスの質の向上に取り組まれている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、管理者、施設長とまとめられた後に、職員の意見等を聞き作成された。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は平成18年8月に第1回目を開催、その後は2~3ヶ月に1回開催、出席者は家族代表、自治会長、老人会長、町職員、管理者、施設長が出席しており、討議内容は、事業所の現状と活動報告、利用状況、行事等を説明され、出席者(社協)から権利擁護、後見人制度の説明があり、また、災害時の対応、地域交流のあり方等貴重な意見が出されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時に話し合い意見等を聞くようにしている。年2回の家族会でも話し合う機会を持っている。出された意見は申し送り等で職員に周知している。苦情、相談の窓口等は、重要事項説明書に明記し意見等が反映できるようになっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所としては、自治会、老人会(地元利用者)に加入しており、地域から案内された行事、学校関係行事等に参加している。また、事業所(踊り等)の行事にも参加してもらおう等、日常では散歩に出かけた時、地域の人達との挨拶、小学生との交流も図っている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「笑顔と優しさあふれる」、「家庭的な環境の中で」、「家事や趣味を楽しみながら」、「一人一人のニーズに合った介護等」を基本に地域との交流を図っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り(朝礼)、月1回の会議等で機会ある毎に話し合い、確認し日々理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会に加入し、地域の行事(敬老会、一人暮らし昼食会)、学校関係行事(発表会)に参加している。また、事業所の行事(踊り等)にも参加してもらっており、保育園児の来訪もある等、地域の人達との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者、施設長がまとめた後に、職員の意見を聞き作成している。外部評価の結果については、会議等で職員と話し合い改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は平成18年8月に第1回目を開催、その後は2~3ヶ月に1回開き、記録も保管されている。出席者は家族代表者、自治会長、老人会長、町職員、社協職員、管理者、施設長等が出席している。討議内容は、事業所の現状、活動報告、行事、今後の取り組み等を説明され、出席者からは地域とのあり方等貴重な意見が出されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町福祉生活課、地域包括支援センターには、常に訪問し情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。また、介護相談員の来訪もあり、町との連携はよくとれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回「すいせん」の事業所便りを発行し、利用者の日常の暮らしぶりや健康状態について報告している。家族へは随時電話連絡もしている。金銭管理として利用者の預かり金の収支は記録され、家族へは残金報告がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に家族等と話し合い意見も聞くようにしている。また、年2回の家族会でも話し合いの機会を持っている。出された意見は申し送り、会議等で職員に周知している。外部の苦情、相談窓口等は重要事項説明書に明記されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は抑えたい事もあり、長期欠席職員の復帰については考慮し、利用者への影響にも配慮している。ユニット間の職員の交流も行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修情報によって職員は研修に参加している。研修受講後は報告書を作成し、会議等で伝達も行っている。職員個人の資格取得については事業所としても応援している。	○	職員の資質の向上は、よりよい介護サービスの提供につながる事から職員の継続的な研修は重要である。年間の研修計画をたて、いつでも受講できる体制を整えられることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域事業所連絡会があり、(地域包括支援センター主導)他の事業所を交えた会議、交流会、訪問等が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
	12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望者の家族に面接し、その後に事業所を見学されて、事業所の雰囲気になれて職員とも接し、利用希望者、家族が納得して入所するように支援している。	
	13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との日常の暮らしの中で、粘土いじり、食事の後片付け、洗濯物干し等を一緒にしながら、利用者から食事の味付け等を教えてもらう事がある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
	14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、利用者一人ひとりの思いを引き出すように努めているが、介護度の高い利用者が多くなり、自己の意思表示の困難さもあり、職員がゆったりとかかわりを持つ事で、利用者の意向を把握するように努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
	15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の思い希望等を担当職員が聞き、月1回の会議で話し合い介護計画を作成している。	
	16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々申し送り、ユニット会議等で常に見直されているが、介護計画書には記録としてはされていない。基本的には3ヶ月に1回見直されている。	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自宅への帰宅(衣服の入れ替え)、買い物、かかりつけ医への受診、他科(眼科、耳鼻科)の受診等柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医(協力医)には2週間に1回定期的に受診しており、必要に応じて往診も受けている。利用者の状態により医師と相談のうえ、病院への受診の支援もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した時の対応に係る指針」、「看とりの指針」を作成し医師、看護師、職員の協力を得ながら、利用者、家族の意思を尊重した支援を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの性格を理解し気持ちを損なわない接し方、言葉がけに注意するように意識している。書類等の個人情報の取り扱いも周知され、利用者、家族の同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調、気持ちを見極め利用者のペースで一日が過せるように配慮している。天気がよければ散歩に出かけている。食事時間、入浴時間は利用者の意向に添うよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事介助を要する利用者が、増えている現状から、利用者と一緒に準備したり、食事をする事が少なくなっている。食事の後片付けの可能な利用者には手伝ってもらっている。	○	ユニットによって利用者の状況には差が見られるが、少しでも食べる楽しみが感じられるように、職員は全体が把握できるレイアウト等を検討されることが望ましい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴できるようになっている。基本的には週2回入浴できるように配慮している。シャワー浴も可能である。入浴時間は利用者の要望に応じた対応を楽しんでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の一人ひとりの生活歴、能力、日々の暮らしぶりから得意なこと、できること好きなことを見出し、食事の後片付け、ごみだし、花の水遣り、買い物(荷物持ち)等をする事が楽しみでもあり、役割にもなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い時は、事業所周辺の散歩、買い物、季節の花見、地域の行事、外食等外出する機会が多くなるような支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の入り口は開けられていたが、利用者の意向で、施錠している居室もある。玄関は施錠されてなく、玄関の戸は開けられている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は平成19年末は実施されていない。町防災情報が得られるSTB(セットトップボックス)は設置されている。災害用の水、食糧備蓄は(2日分)準備されている。	○	運営推進会議で災害時の対応が話題にされており、地域の協力体制は得られているが、事業所の重要事項説明書に記載の防災計画通り、町消防署の協力を得て防災、避難訓練の実施をされることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
ete					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	事業所で食材は購入しユニット毎に栄養バランスを考慮した献立を作成している。利用者一人ひとりの食事摂取量も記録されている。水分量についても確保され、制限のある利用者の水分量は記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット毎に玄関があり、居間兼食堂、廊下等は天井が高く明るく広々している。事業所の西側(玄関先)電車の線路があるが、事業所内からは騒音としては感じられなかった。玄関、居間には花が置かれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、ベット、整理ダンス、エアコンが設置されており、利用者の好みの物(仏壇、テレビ)等が持ち込まれ、利用者それぞれのレイアウトで、居心地よく過ごせるようになっている。		